

**日本語教育の地域連携の可能性を考える
～外国人のライフサイクルという視点から～
外国人労働者・外国人高齢者とともに**

堀 永乃 (一社) グローバル人財サポート浜松

はじめに

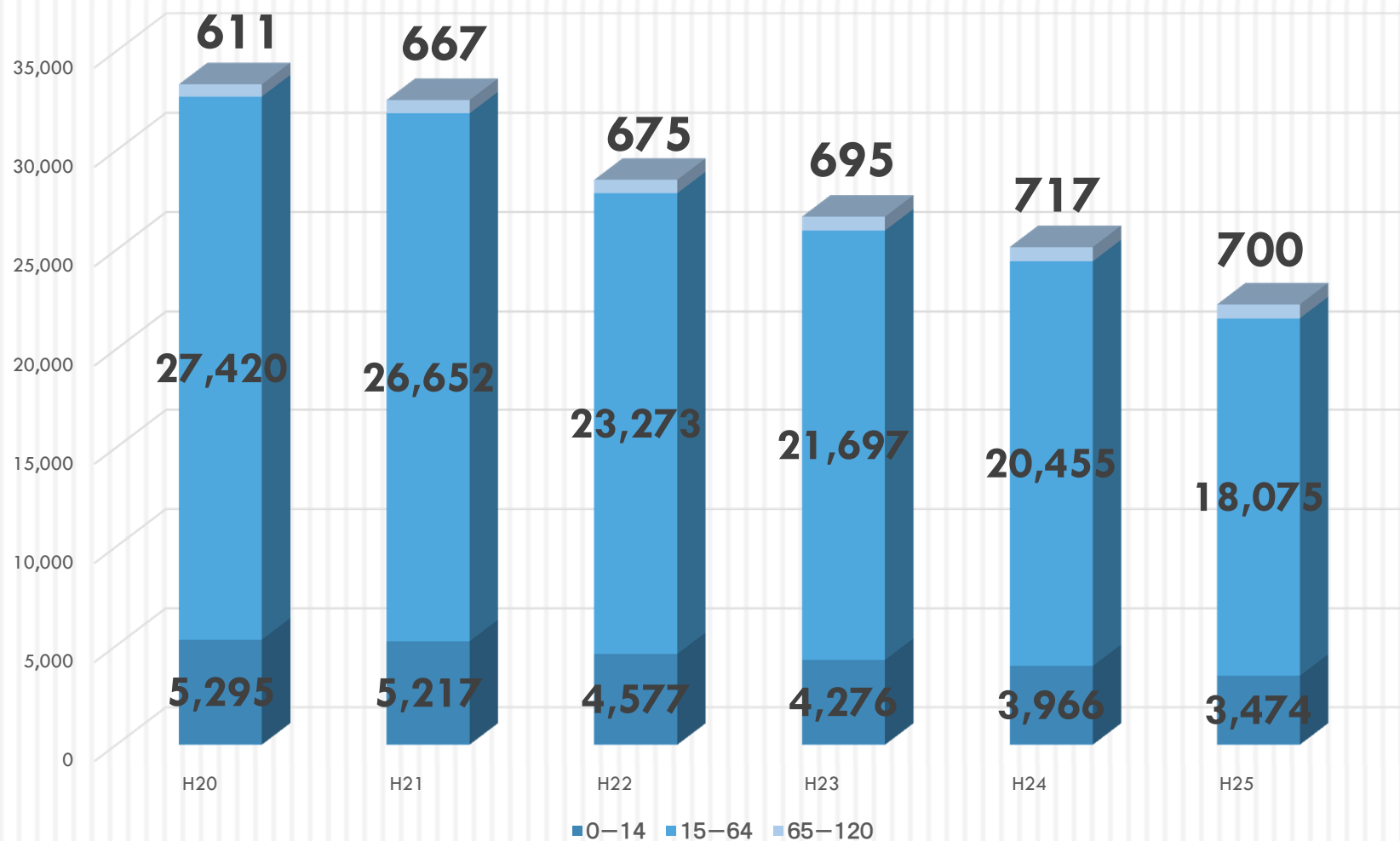
- 「人は地域の財産」という理念のもと、多様な人々が活躍できる社会の構築に向けた活動を行っている
- 2011年1月設立、同年11月に法人化

2つの柱

- 在住外国人支援
 1. 外国人介護人材育成と就労支援
 2. 外国人技能実習生のための企業内日本語研修と国際交流
 3. 多文化パワーを活かした地域活性化
- 次世代育成と活動支援
 1. 大学生の社会貢献活動支援
 2. 講師派遣

外国人介護人材育成と就労支援

浜松市の外国人人口年齢推移



浜松市の高齢者と要介護認定者

- 外国人人口のうち、65歳以上の外国人人口
696人（男性326人、女性370人）

平成26年4月1日現在

- 外国人市民のうち、介護認定を受けている人数
平成25年 認定件数 95人

外国人の介護人材の必要性

- 浜松市および周辺地域は南米系外国人が多数居住する「集住都市」である。
- 外国人住民の滞日期間が長期化していることから、外国人の高齢化が進んでいる。
- 多くの外国人が派遣・請負雇用であるため、正規雇用での安定した生活を望む外国人もいる。工場からの転職で介護職を希望する外国人が増えてきた。
- 最低限の資格として必要な介護職員初任者（旧ヘルパー2級）研修は外国人にとって難易度が高い。
- 多文化な介護職員により多様な介護サービス提供が可能。

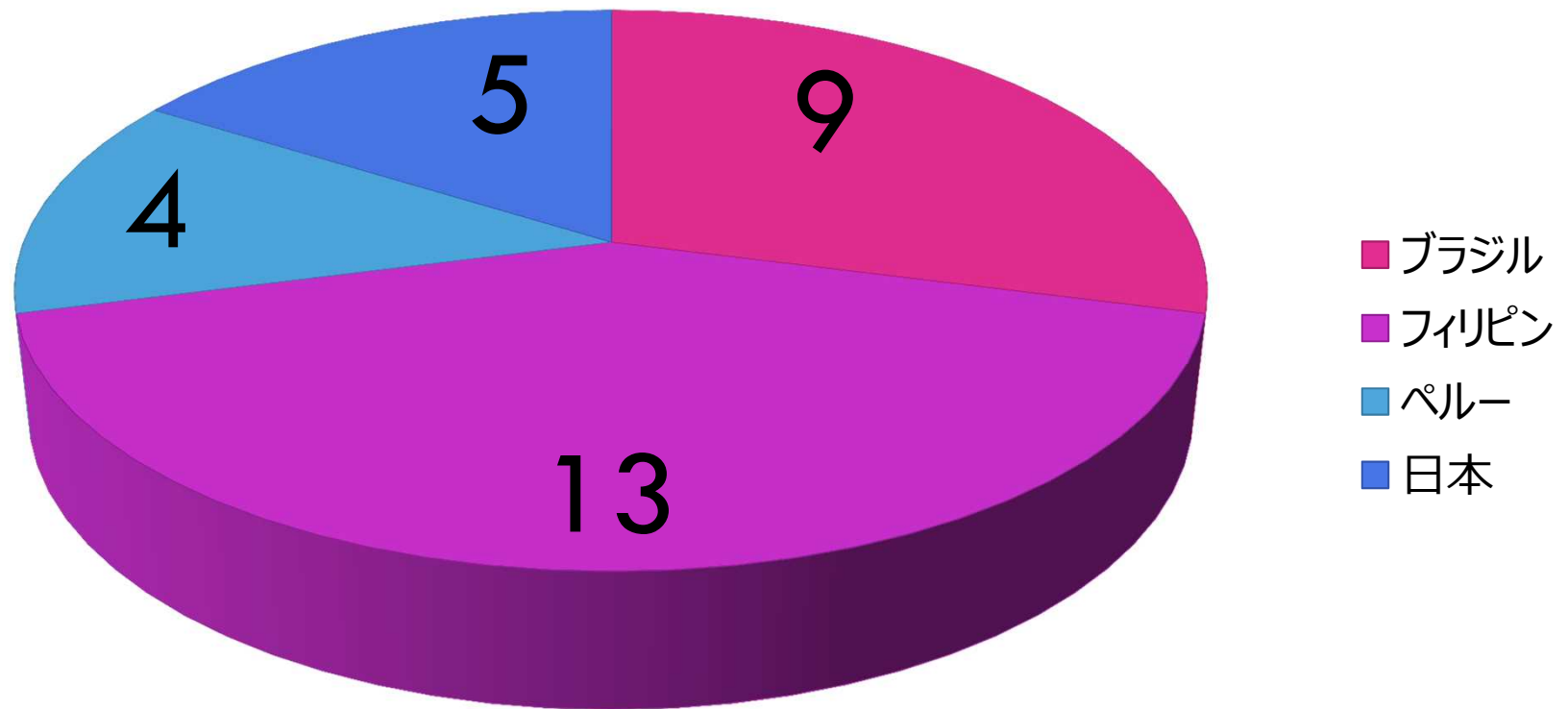
内容



概要

- 対象 在住外国人 ※EPAの外国人を除く
- 介護ヘルパー2級取得講座
通信制、スクーリング78時間（講義、実習）
H24 10人 H25 15人 就労サポート24人
- 介護職員初任者研修
通信制、スクーリング99.5時間（講義、日本語）
※実習は希望者のみ
H25 11人
テキスト 日本医療企画
サブテキスト グローバルオリジナルテキスト

受講者国籍内訳



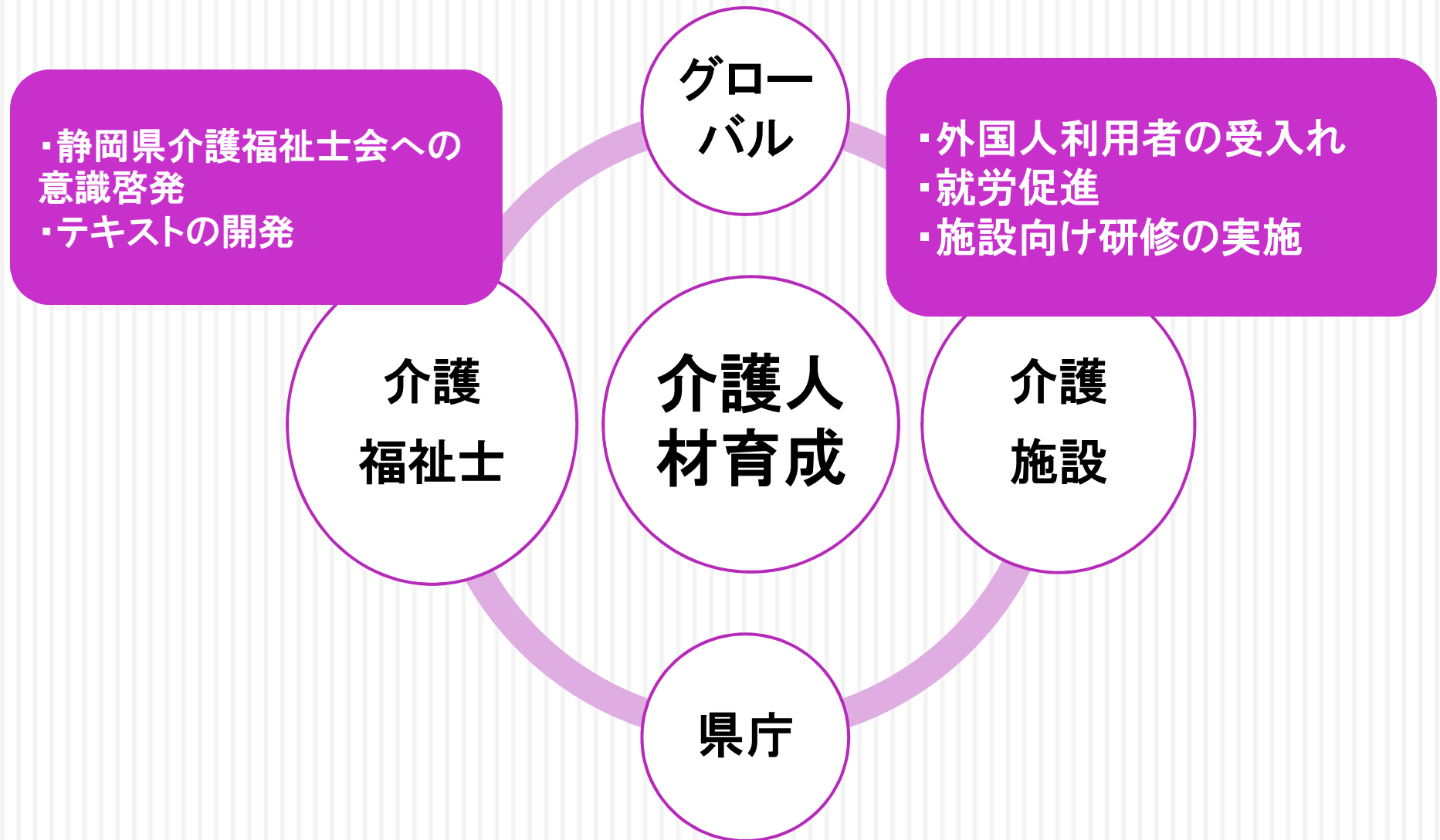
講座の様子



個別サポート・就労支援・就労後支援



連携の仕組みと効果



介護施設の意識に変化！

- 外国人も安心してサービスを受けられるようになった
例) 80歳のペルー人男性
ブラジル人が働く介護施設にてデイサービスを利用
病院からの紹介※
- 外国人ワーカーの受入れに前向き 7月アンケート n=43
雇用している 23% →採用に不安はあった 82%
→職場内で工夫している 60%
→トラブルがあった 10%
雇用していない 77% →採用したい 56%

外国人技能実習生のための企業内日本語教室と国際交流

坂下製作所企業内日本語教室

- ホンダの下請け企業。自動車部品を製造
 - タイ・インドネシア・ベトナムの研修生
 - 6～8人 ※南米系外国人労働者にも教室は解放
 - 毎週月曜日 17:15～18:45
- ※日勤と夜勤の間の休憩時間を有効活用
- 日本人従業員（特に社長）も同席
 - 教室にかかる経費はすべて自社負担
 - 職場で活かされる日本語を指導してほしい；企業ニーズ
日本人と友達になりたい、話したい；研修生ニーズ

講座の様子

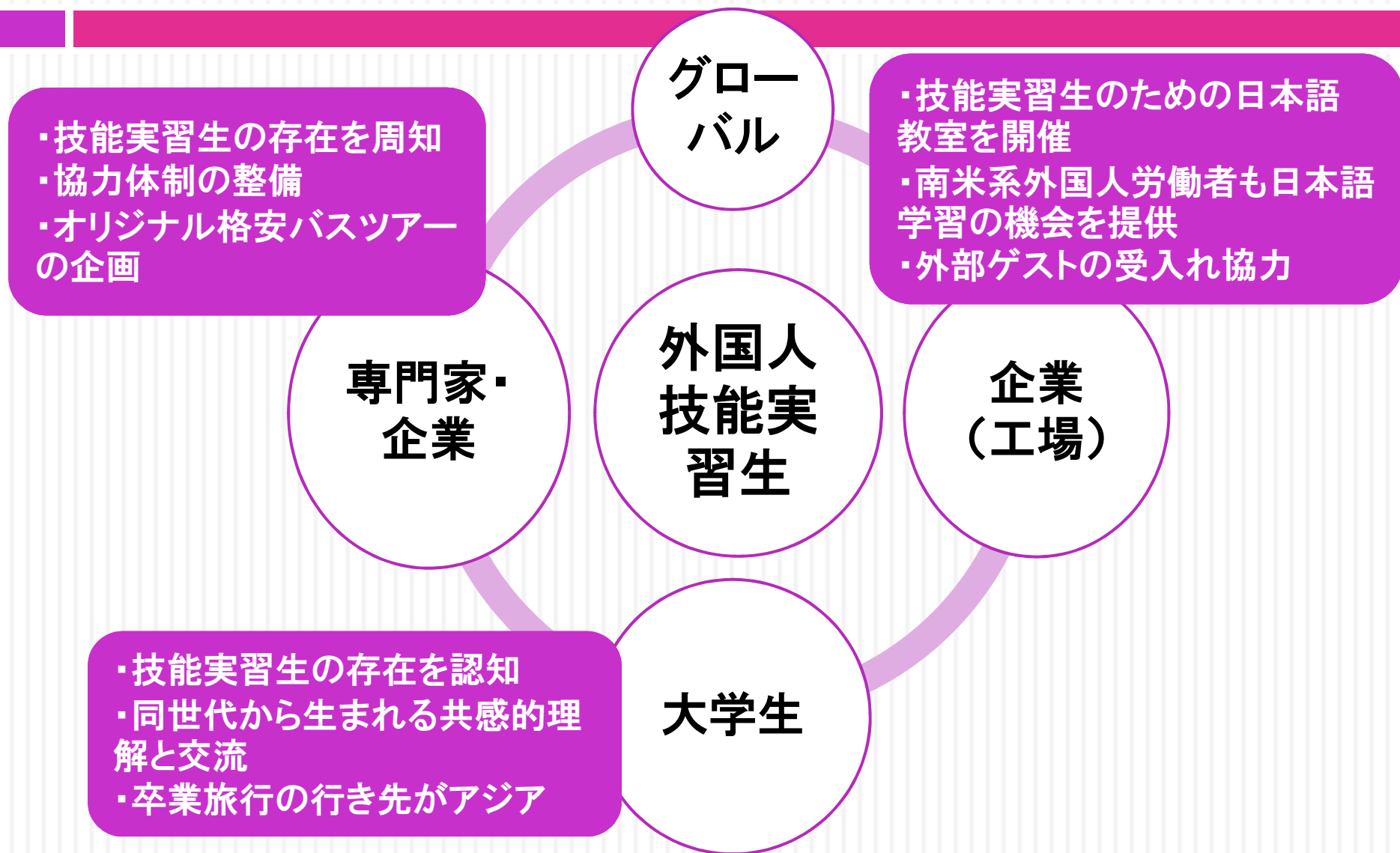


当事者の関わり



- 当事者をゲスト講師に迎える
例) 災害時の日本語
→ 消防士
例) 不良品の説明
→ 工場責任者
- 大学生インターンシップ
楽しく会話し交流する

連携の仕組みと効果



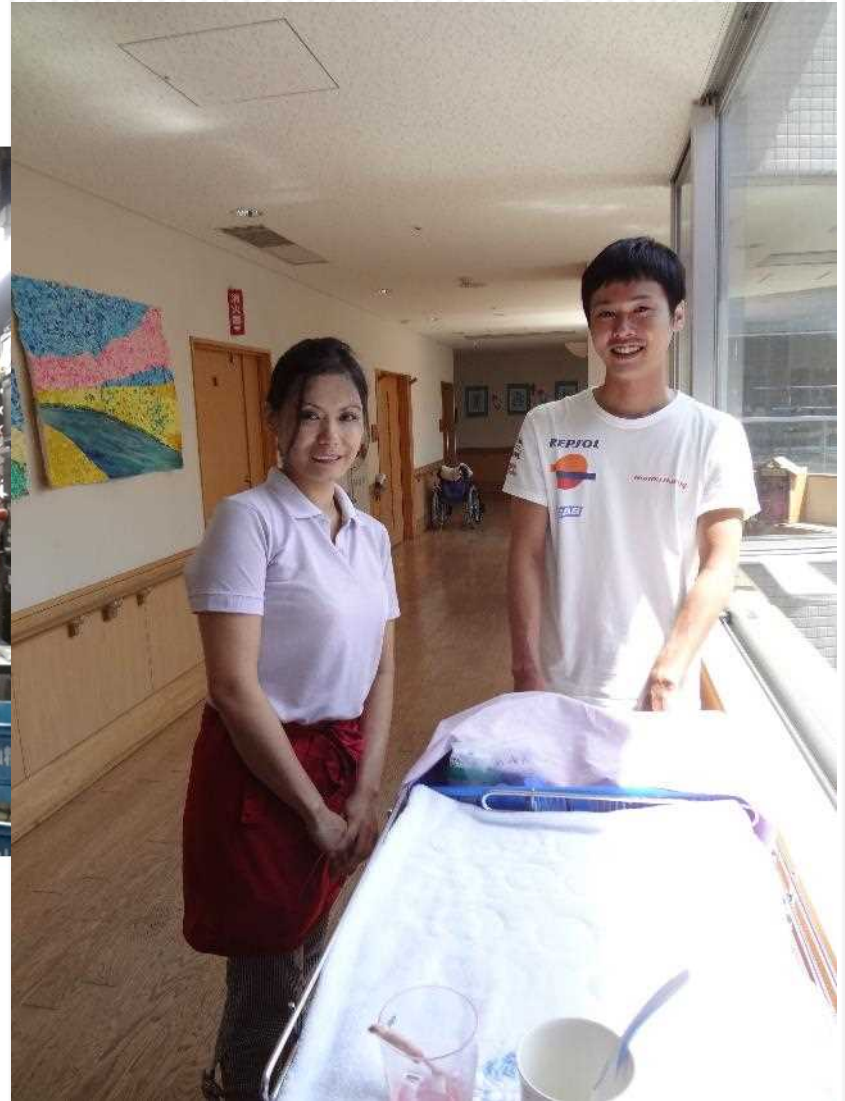
日本文化も体験し、相互理解を深める



**同世代同士での人材交流
＝次世代育成**

まとめ

- 在住外国人のQuality Of Lifeの充実を
- 講座→意欲→勤労→認知・評価→自立・自己実現
- 場を社会に開くことにより、多数の目で評価される
- コーディネーターや支援者は常に外とつながることを意識して取り組むことが望ましい
- 個人にも社会的貢献の責任がある（ISO26000）



ご清聴、ありがとうございました